

三叉神経痛の69歳の女性 元医療従事者の女性が、顔の右側に激しい痛みを訴えて私の元に訪れた。これは彼女がワクチンを接種してから2週間後に発症した。彼女は慢性疾患を持たない完全に健康な状態で、静かな退職生活を楽しみにしていたが、耐えがたい痛みにより夜中の2時に目が覚めることが多く、ワクチンを接種したことを後悔していた。私は三叉神経痛と診断し、彼女にイベルメクチンと抗けいれん薬カルバマゼピンを処方すると、約3週間で完全に回復した。1年後に彼女に再会した時も、彼女は完全に健康な状態だった。

ステイップパーソン症候群 (SPS) の45歳の女性 2023年8月、2人の子どもを持つ母親が、2人の成人した娘たちに支えられて私の診療所に来てくれた。彼女は自分で歩くことができず、完全に混乱し、眠気を訴えた。彼女の姿勢は歪み、首の筋肉の非対称な痙攣により頭が片側に引つ張られていた。彼女の全身の筋肉は痛みを伴う痙攣を起こしていたため、立つことも歩くこともできなかった。彼女はこの状態で2週間、集中治療室に入院し、人工呼吸器を装着されていた。

彼女は2回目のファイザーワクチンを接種した直後に痙攣を経験していた。他の多くの患者と同様、彼女も職を失うリスクを恐れ、ワクチン接種を余儀なくされた。長期の病欠の結果、彼女は雇用主に解雇されたが、会社側からは謝罪や補償もなかった。私は彼女を中枢神経系の自己免疫疾患であるステイップパーソン症候群と診断し、イベルメクチン、ヒドロキ

シクロロキン、抗うつ薬フルオキセチン、ビタミンD、ニコチンガム(ドーパミン放出促進効果がある)、ナットウキナーゼ(血栓を分解し、血流を改善する納豆由来の酵素)などを含む私の治療プロトコルに従って治療を開始した。彼女は6カ月後には完全に歩けるようになった。彼女はその後、右側の脳卒中を発症したが、私はそれがワクチンによる血栓が原因ではないか疑った。再度治療を行い、彼女は回復しつつある。

## V イベルメクチンとがん

イベルメクチンには強力な抗腫瘍活性があり、がん細胞の増殖、転移、血管新生を抑制する。また、イベルメクチンはアポトーシス(細胞自死)、オートファジー(細胞の自食作用)、パイロトーシス(炎症性細胞死)を通じてがん細胞の死を促進する。さらに、イベルメクチンは腫瘍幹細胞の成長を抑制し、化学療法と併用することでより効果的に機能し、多剤耐性腫瘍を逆転させることができる。

### イベルメクチンを用いたがん治療

乳がん 乳がんは、様々な発がん物質によって引き起こされる遺伝子変異により生じる悪性腫瘍で、女性に最も多く発生するがんである。世界では18秒ごとに新たな乳がん症例が発